

## 答えのない会話が大事！！

### ～子どものSOSの受け止め方～



12月15日（月）に、臨床心理士・公認心理師で、可児市スーパーバイザーでもある川原聡先生を招き、「子どものSOSの受け止め方」と題して、子育てまなび講座を開催しました。児童生徒の不登校は、過去最多の35万人を超えました。また、34歳以下の死因の1位は自殺であるとのことでした。私たちは、若者が命を失う理由が災害や、事故、病気より自死が多いというこの現実を受け止めなくてはなりません。普段の生活の中での辛いことが少しずつたまって自死を選ぶことも多いそうです。では、私たち親や大人はどのように子どもたちのSOSに気づき、どのような心構えて自立を支えていけばよいのか、川原先生の講演からポイントをまとめました。

#### <非言語的サインを拾う>

- ・言葉にはしない態度や行動に注目
- ・口元には不安が表れやすい（指しゃぶり、鉛筆しゃぶり、髪の毛をなめるなど）

#### <具体的な会話のやりとり>

- ・子どもから死にたいと言われた時は、死んではいけないと頭から否定せず「そんなに辛いことがあったんだね、いつから？一緒に考えたい。」と子どもの思いを受け止め、一緒に考えていくことを提案する。
- ・子どもの「死にたい」に対して死ぬことの是非を説明・説得しないで、死にたくなるほどの気持ちを聞いていく。

子どもの様子を見ながらも、日頃から困ったことがあったら親に言える。この関係性を日頃から作れるように一緒に子育てしていきましょう。

#### <どんなことを心がけるとよいか>

- ・大人がよい情報をいっぱい話すとよい。子どもに希望を持たせること。そして大丈夫だよ、大丈夫、やっていけるよという声かけ。
- ・多くの大人に関わらせることが大事。
- ・苦しい時や困っている時に助けを求める行動ができるように手助けする。
- ・否定されず安心して自分の苦しさを親に言える関係を作っておくことが大事。
- ・なぜ自傷行為をしたのかと問いたずらではなく、「あなたにどんな大変なことが起こったのか」と聞く。

#### <相談されたら TALK>

- ・Tell…言葉に出して「心配してるよ」と伝える
- ・Ask…「辛い」「苦しい」気持ちについて尋ねる
- ・Listen…話を遮らずに耳を傾ける
- ・Keep Safe…信頼できる人に援助を求める

## 家庭教育学級 NEW トピックス

市内の小中学校等で家庭教育学級が開催されています。それぞれの実態に合わせて開催日の工夫、市との連携、サロンを取り入れるなどいろいろな工夫が行われています。その一部を紹介します。



東可児中学校 味噌づくり



土田小学校 親子ラムネ作り



久々利保育園 親子ダンス

働くお母さん、お父さんも家庭教育学級に参加したい。親子で一緒に取り組みたい。そんな様々な願いをもとに、土曜日に講座を開催している学級もあります。「楽しそうと思ったから親子で参加できてよかった」と笑顔で帰って行かれたお父さんの姿が印象的でした。また、日本の伝統的な食に興味をもち、進んでそば作りや、梅干し作りなどに挑戦しているお父さんが、家庭教育学級で味噌作りに挑戦されました。家庭教育学級では、ご夫婦で参加、親子で参加等いろいろな願いをもって参加してくださっています。



大栄幼稚園 ふらばーる



蘇南中学校閉講式 みんなで輪になって



すみれ楽園 キンボール



今渡南小学校 閉講式+サロン

可見市文化スポーツ課との連携により、スポーツ推進委員会の皆さんと一緒に楽しめます。会話が弾み、みんなが笑顔になれる時間です。

閉講式などみんなで輪になって、活動を振り返ること  
で異学年の保護者の方とのつながりが生まれます。

可見市 子育て支援課 子育て応援係 山口 亜衣  
電話：62-1111(内線 5545) FAX：66-1005  
E-mail:kosodate@city.kani.lg.jp